

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年9月24日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873600472		
法人名	社会福祉法人 東湖園		
事業所名	高齢者グループホーム 百歳万歳	ユニット名	壺番館
所在地	〒311-1504 茨城県鉾田市安房1665-2		
自己評価作成日	平成25年4月25日	評価結果 市町村受理日	平成25年9月18日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0873600472-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0873600472-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年6月25日	評価確定日	平成25年9月10日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"><li>・同法人が運営する保育園との交流が数多くあり、運動会や誕生会を通じて、園児とふれあう機会がある。</li><li>・プランターに野菜や花を植え、入所者が作業しやすいよう工夫し、職員と共に野菜づくり、花作りや水やりをしている。</li><li>・近隣に協力病院があり医療支援を受けやすい。</li></ul>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>「医療と福祉が連携すべきである」という代表者の思いから、系列の医療機関に隣接して開設された事業所であり、24時間体制で医療の支援が受けられるため、利用者や家族等の安心につながっている。</p> <p>同一法人が運営する保育園と活発に交流を図っており、運動会や誕生会を通じた園児とのふれ合いが利用者にとって楽しみの一つになっている。</p> <p>職員は「利用者が残存機能を活かしながら役割意識を持って暮らせるように支援したい」との代表者や管理者の思いのもと、利用者本位のサービスを提供している。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関とスタッフルームに掲示すると共に、カンファレンスや会議等で理念の意識を確認し、より具体的なケアの実践に取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成し、玄関とスタッフルームに掲示するとともに、毎日のカンファレンスや月1回の会議で唱和して共有を図り、全職員が理念を意識して実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育園、地元のボランティアの訪問を積極的に受け入れている。</li> <li>・ 特別養護老人ホーム合同で主催する納涼祭にて地域の方を招待している。</li> <li>・ 近隣の農家の方が野菜等を届けてくれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同一法人の保育園と毎月交流会を行い、利用者の誕生月には園児からプレゼントがあるほか、保育園の運動会では利用者と職員が玉入れや玉手箱競技に参加して交流をしている。</li> <li>・ 唱歌を歌うボランティアのほか、カラオケ、手芸など地域のボランティアを受け入れている。</li> <li>・ 隣接する特別養護老人ホームと合同で開催する納涼祭や敬老会に地域住民を招待している。</li> <li>・ 利用者は職員と一緒に市が主催する秋のフェスティバルや文化祭に出かけており、知人との交流の場となっている。</li> <li>・ 近隣の農家の方が野菜を届けてくれるなど、地域の人々と日常的に交流している。</li> </ul>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 在宅介護支援センター主催の介護教室に参加すると共に、介護方法やグループホームについて説明している。</li> </ul>		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2ヶ月に1回の会議を実施している。又、必要に応じて開催されている。</li> <li>・ 利用者の状況等について話し合い意見を求めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運営推進会議は家族等や市職員、民生委員で2ヶ月に1回開催している。</li> <li>・ 会議では利用者の状況や感染症対策、利用者や家族等へのアンケート結果について話し合い、運営に反映させている。</li> <li>・ 経済的理由で入居が困難な事例に関しては、運営推進会議で話し合っ生活保護の申請につなげるなど、出た意見等を活かしている。</li> </ul>	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会議時などに話す機会を持っている。	管理者は電話や市担当窓口に出向いて入退居状況を報告したり、地域包括支援センターから新たな入居者の情報を得ている。 管理者は市が運営する地域密着型サービス運営委員会の委員を務め、会合に参加して市担当者や地域包括支援センターの職員に支援困難な利用者について相談をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・施設内研修を行なっている。	身体拘束廃止委員会を設置するとともに、身体拘束廃止マニュアルを作成して年2回内部研修を実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 現在身体拘束の対象者はいないが、利用者の安全確保のためにやむを得ず身体拘束をする場合には、利用者や家族等に十分に説明して書面で同意を得ることとしているほか、経過記録や再検討記録を作成して身体拘束の必要性を見直す体制ができています。 玄関は施錠せずにセンサーを設置したり、必要に応じて離床センサーを使用したりして、利用者を見守ることで身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・施設内研修を行なっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・施設内研修を行なっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約書に基づき利用者や家族から不安や疑問に対して、十分に説明し納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・意見箱を設け、自分で書ける方は書いて頂き、書けない方は口答で申し出て頂いてアンケートを作成し本人や御家族に記入して頂いている。又、それについて利用者や家族、職員間で話し合い、よりよい方法を考えている。	運営推進会議に家族等が参加した際や家族等が面会のため来訪した際に要望を聴いている。 玄関に意見箱を設置しているほか、年1回利用者や家族等に事業所独自に作成した無記名のアンケートを実施している。 利用者や家族等の希望により外出の機会を増やすなど、出た意見等をサービスに活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月に1回又、随時グループホーム会議を設けて意見を聞いている。	管理者は全職員が参加する月1回の会議で職員の意見や提案を聞いているほか、個別に意見を聞く機会を設けたり、日常の業務の中で随時意見を聞くよう努めている。 日々の業務を公平に行えるようにしたいという職員の希望により、翌日の業務分担を前日に職員同士が話し合って決めている。 早番の勤務時間を繰り上げたり、外食の機会を設けるほか、利用者同士の関係が良好に保てるようテーブルや席の配置を考慮するなど、職員の意見を積極的に取り入れ、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職員評価表を用いて自己評価をして、その後、管理職が再評価をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・法人内の年間計画で研修を行っている。又、外部研修へも参加する機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・市の会議に参加したり、外部研修参加時に同業者と交流する機会を設けている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・利用前に実態調査の為、訪問し、本人からの疑問、要望等を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・利用前に実態調査の為、訪問し、家族からの疑問、要望等を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人の状況にあった施設、又は居宅であるか本人、家族、施設職員とよく話し合い、見極めをしケースによっては、法人内の在宅介護支援センターに相談する事もある。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・職員と食事をしたり、野菜や花作りを一緒にしている。又、その中で悩みや訴えを聞いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・行事等には、家族に連絡をし、参加して頂いて食事等を共にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・電話や手紙を書いたりして、関係が、継続出来るように支援している。	職員は利用者が馴染みの理・美容室や時計店、スーパーなどに行けるよう付き添って支援している。 帰宅願望のある利用者には、職員が日中のみ適宜、一時帰宅のために送迎をしている。 職員は利用者が知人や友人に電話をかけたり、手紙を出したりして関係が継続できるよう支援しているほか、併設の通所介護事業所を利用して友人と行き来ができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・本人の出来る役割（放送等）をしてもらい、お互い認め合えるような関係を築けるよう援助している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・協力病院に入院されている時には、定期的に訪室し、声かけをしている。 ・同一法人内施設入所時にも随時、見守り、声かけをしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・定期的にケアチェック表を利用して、モニタリングし、希望、要望を把握している。	職員は日々の生活の中で「花見に行きたい」や「外食をしたい」などの希望や意向を把握し、個人記録にアンダーラインを引くなどの工夫をして全職員で共有し、サービスに反映させている。 思いや意向の把握が困難な利用者の場合は、表情やしぐさなどから思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査の資料を基に趣味や、以前の経験を暮らしの中に活かしていけるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・随時モニタリング、カンファレンスをし、状況を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・入所者、家族の要望を把握して、これによってアセスメントを行ない介護計画をたてている。	職員や家族等が参加するカンファレンスで利用者がより良く暮らすための課題について話し合い、残存機能を活かせる具体的な介護計画を作成している。 3ヶ月に1回モニタリングを行い、評価に基づいて短期計画は3ヶ月毎、長期計画は6ヶ月毎に見直している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、随時現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・介護計画に基づいた記録を見直しながら、モニタリングを行わない計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・買い物の要望、又は代行。事務の代行（振り込み等）を随時、行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・ボランティアの方や保育園児達に来て頂いたり、保育園の行事にも参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入所者、家族の希望が優先であり、協力病院と連携を密にして気軽に相談している。	入居後もこれまでのかかりつけ医を受診できるよう職員が付き添うとともに、受診結果はその日のうちに電話で家族等に報告している。 家族等が受診に付き添う場合はバイタルサインを含めた情報を記載したメモを家族等に手渡すとともに、家族等から聞き取った受診結果を申し送りノートに記録し、全職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・園長が兼務し、夜間緊急時の相談、対応が出来る。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・隣接地にかかりつけの病院があるため、入院時には、毎日面会に行っている。又、隣接しているため、早期発見による治療も可能である。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入所前の契約時に話し合いをし、意向を聞いている。契約書に記載している。又、協力病院以外の病院入院時には随時、家族と連絡を取り合い状況把握に努め、退院後の生活について話し合うようにしている。	「看取りに関する指針」を作成し、入居時に利用者や家族等に説明して同意を得ている。協力医療機関と24時間の連絡体制を築いている。 事業所ではこれまでに看取りの事例はないが、職員は利用者の重度化や終末期に備え、看取りに関する内部研修を受講して方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急対応マニュアルを作成している。緊急時における連絡網の掲示、病院が隣接しており緊急時に対応出来る体制となっている。又、研修会も行なっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・定期的に消火訓練、避難訓練を実施している。又、地元の消防団の方々にも参加して頂いている。 ・非常災害用に3日分位の水と食料品を備蓄している。	年2回隣接する特別養護老人ホームと合同で、夜間想定を含む避難訓練を実施しているほか、年2回事業所独自の避難訓練を実施して結果を記録しているが、避難訓練で明らかになった課題を話し合うまでには至っていない。 避難訓練に地元の消防団員が参加するなど、消防団との協力体制を築いているが、近隣住民の参加を得るまでには至っていない。 災害に備えて食糧や飲料水、懐中電灯などを備蓄してリストを作成し、定期的に点検している。	避難訓練に近隣住民の参加が得られるよう、運営推進会議で話し合うことを期待する。 災害時に備えて地域との協力体制を築くため、食材を購入している近隣のスーパーなどに協力要請を検討することを提案する。 災害時における利用者や職員の安全確保のため、避難訓練で明らかになった課題を話し合い、次回の訓練に活かすことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・職員は入所者の生活歴や生活を十分に把握し、言葉かけをしている。又、職員研修を行っており、常に勉強に努めている。	年1回個人情報に関する内部研修を行っている。 職員は利用者の生活歴を把握するとともに、人格を尊重した言葉かけをしているほか、排泄パッドは居室のクローゼットで保管するなど、プライバシーに配慮したケアを実践している。 個人情報に関する書類は事務室の鍵のかかる書棚に保管し、情報の漏洩に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・入所者の希望を大切にし、日々の行事等も取り入れている。 ・本人の思いを記録する時には、ケース記録に赤ラインを引く等をし、職員間で共有出来るようにする。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・入所者のペースに合わせた、ゆったりとしたケアの実践と支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・好みの服の買い物や美容室も本人の好みの所へ行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・本人の好みの箸や食器の使用をしている。 ・テーブル拭きや片付け等も共に行なっている。	利用者と職員で話し合ったり、自家菜園で収穫した野菜を食材に取り入れたりして、季節感のある献立を作成している。 利用者の要望を受けて刺身やオムライスの日を決めたり、誕生日や行事の際には利用者の希望を取り入れた特別食を提供したりしている。 職員は利用者と一緒と同じ食事を摂ったり、週4回利用者と一緒におやつを手作りしたりしているほか、年1回寿司バイキングを行い、食事が楽しめるよう支援している。 利用者は役割意識を持ちながら職員と一緒にテーブル拭きなどを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・入所者ひとりひとりの食事や水分量の状況を把握し、チェック表に記載している。又、ヤクルトなどを毎日、飲んでいいる。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・食後は歯磨き、義歯の手入れ、うがいなど自分で行なって頂いている。出来ない方は、支援している。又、年1回、協力歯科医に来園してもらい、検診を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・排泄チェック表を使用し、排泄パターンを把握し、自立にむけて支援している。介助が必要な方は定期的に誘導している。	職員は排泄チェックシートにより利用者一人ひとりの排泄パターンやサインを把握するとともに、タイミングを見計らって声かけや誘導を行い、できるだけトイレで排泄ができるよう支援している。 現在おむつを使用している利用者はいないが、パッドを使用している利用者には、尿失禁予防のため定期的にトイレ誘導をしてパッドの使用量減少につなげている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・野菜を多く取り入れた食事を提供している。又、牛乳やヨーグルト、オリゴ糖水などの提供、1日2回、身体を動かす体操を取り入れている。園外への散歩、ホール内での運動も多く取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	・希望に応じて、毎日、又は1日おきに、実施し、ゆったりと入浴できるように支援している。シャワーベンチマット、シャンプーも本人の好みの物を個別で使用している。	利用者の希望にそって毎日または1日おきに入浴を支援している。 基本的には日中の入浴としているが、希望があれば夜間の入浴も可能となっている。 利用者の身体状況に合わせて対応ができるよう、左右どちらからでも入ることができる浴槽を設置しているほか、シャワーベンチや利用者の好みのシャンプーを用意したり、季節に合わせて柚子湯や菖蒲湯を取り入れたりして、楽しみながら安全に入浴ができるよう環境を整えている。 入浴を拒む利用者には清拭や足浴で対応したり、時間を見計らって声かけをするなど、無理のないよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・ドライブや散歩、レクリエーションを通して、夜間眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・個別の薬の飲み方や副作用等の症状の変化や早期発見に努めている。 ・変化がある場合には、医師、看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・食事やおやつ時の放送、園芸等、ひとりひとりの役割や楽しみごとに応じた支援を行なっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・入所者ひとりひとりに合わせて、外出できるよう支援している。（買い物、ドライブ、地域の催し物等）又、家族の協力を得て、面会時等、外出している。	天気の良い日には事業所周辺の散歩を支援している。 外出の年間計画を立てて花見に出かけたり、大竹海岸や鹿行大橋へのドライブなど、普段は行けないような場所への外出を支援しており、鹿島灘海浜公園で開催された「うまかっぺフェスタ」にも出かけている。 銚田神社に初詣に出かけたり、銚田神社祭礼では隣接する特別養護老人ホームに祭り囃子の山車が立ち寄るため、見物に行けるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・金銭管理の出来る方は、小遣いの範囲内で自己管理している。その他は、個別の支援をしている。出納は家族に定期的に書面で報告している。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・本人の希望があった時、電話をかけたり、手紙のやり取りをしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入所者や職員が共に作成した作品や七夕飾り、お月見団子、鏡もち作り等をしている。又、ゆず湯や菖蒲湯の入浴や梅の実を収穫してジュース作りも行っている。	広縁付きの和室を設けているほか、居間に肘掛け椅子を配置したり、観葉植物や季節の花を飾ったりして、利用者が寛げるよう配慮している。 1つのユニットには幅5メートル、長さ約50メートルの広い廊下があり、2ユニット合同でレクリエーションをしたり、保育園児が来訪した際に交流の場として活用したりしている。 廊下の壁に額装した書道や端切れで描いた絵など、利用者の作品や家族等から寄贈されたパッチワークの作品を飾り、家庭的な雰囲気づくりをしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ソファコーナー、畳コーナー、ベランダに休憩コーナーがあり、それぞれ工夫した場所で、入所者がおもいおもいの過ごし方をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・個人、家族の要望を取り入れ、それぞれの装飾品、ラジオ、テレビ等を持ち込み、落ち着いた生活を送っている。	全居室にトイレと洗面台が設置されており、プライバシーを守りながら居心地よく暮らせる環境となっている。 利用者はラジオやテレビ、衣装ケース、小物入れ、化粧道具など使い慣れた物品や仏壇など大切な物品を持ち込んでいるほか、家族等の写真や趣味の手芸品、パズルの作品などを自由に持ち込み、自分の生活スタイルに合った空間づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・名前を居室のドアノブへ表示し、認知症により室内の家具等にも表示している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 高齢者グループホーム 百歳万歳

作成日 平成25年9月17日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		避難訓練に近隣住民の参加が得られるよう、運営推進会議で話し合う事を期待する。災害時に備えて地域との協力体制を築く為、食材を購入している近隣のスーパーなどに協力要請を検討する事を提案する。 災害時における利用者や職員の安全確保の為、避難訓練で明らかになった課題を話し合い、次回の訓練に活かす事を期待する。	避難訓練に地域住民・民生委員も参加して頂き、施設の設備や、位置を確認して頂く。	地域の催し等に積極的に参加し近隣住民との交流を深めると共に、消防訓練の実施計画を作成し分団に訓練に参加して頂けるようお願いする。 また地域で開催する介護者教室でグループホームの案内をし施設を知って頂く。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。